

秋田県防災基本条例（仮称）の制定に向けた県民アンケート（第1回）結果概要

目的

秋田県防災基本条例（仮称）の制定に向け、県民ニーズの把握のためのアンケートを実施し、調査結果を県及び検討会議の検討材料とするとともに、県民が防災の必要性を認識するきっかけとする。

調査手法

美の国あきたネットに設置した回答フォームへの入力による。（アンケート用紙を回収した上での入力代行を含む。）

調査対象

年齢や性別、居住地（県内・県外）などを問わず、誰でも回答できるものとした。

調査期間

令和8年6月5日（金）～7月7日（火）

調査項目

テーマ『災害への備え』

Q0 回答者の属性：年代、性別、居住地（市町村）

Q1 「あなた自身」や「あなたの周り」での日頃の『災害への備え』を自己採点してください。100点満点で点数を入力してください。

Q2 あなたが日頃実行している『災害への備え』は何ですか。（複数回答可）

- | | |
|---|---|
| ☐ 飲料水や非常食の備蓄 | ☐ 非常用持ち出し袋の準備 |
| ☐ 家具等の転落・落下防止対策 | ☐ ハザードマップや避難場所、避難経路の確認 |
| ☐ 気象警報等の情報を得る手段の確保 | ☐ 家族との連絡方法や集合場所の確認 |
| ☐ 地域の防災訓練への参加 | ☐ 特に何もしていない ☐ その他 |

Q3 あなたの地域で大規模な自然災害が発生することを想定した場合、「あなたの周り」と助け合って行動することができると思いますか。

○できる ○ある程度できる ○どちらとも言えない ○あまりできない ○できない ○わからない

Q4 あなたの地域で大規模な自然災害が発生することを想定した場合、「あなた自身」や「あなたの周り」では、高齢者など支援が必要な人に配慮して行動することができると思いますか。

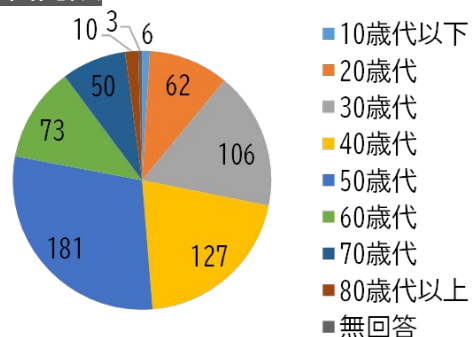
○できる ○ある程度できる ○どちらとも言えない ○あまりできない ○できない ○わからない

Q5 あなたの地域で大規模な自然災害が発生することを想定した場合、どのようなことを不安に感じますか。

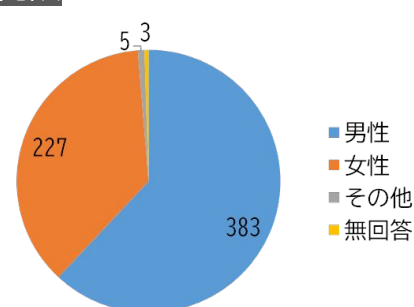
回答状況

回答総数
618件

年代内訳



性別内訳



居住地内訳

鹿角市	4	秋田市	253	大仙市	24
小坂町	2	男鹿市	31	仙北市	7
大館市	35	潟上市	13	美郷町	5
北秋田市	45	五城目町	61	横手市	63
上小阿仁村	1	八郎潟町	2	湯沢市	9
能代市	7	井川町	1	羽後町	1
藤里町	2	大潟村	0	東成瀬村	1
三種町	7	由利本荘市	32	秋田県外	1
八峰町	2	にかほ市	2	無回答	7

Q1 「あなた自身」や「あなたの周り」での日頃の『災害への備え』を自己採点してください。100点満点で点数を入力してください。

全体平均点
50.87点

年代別平均点

10歳代以下	46.67
20歳代	50.42
30歳代	46.57
40歳代	50.28
50歳代	52.43
60歳代	54.31
70歳代	52.55
80歳代以上	47.50

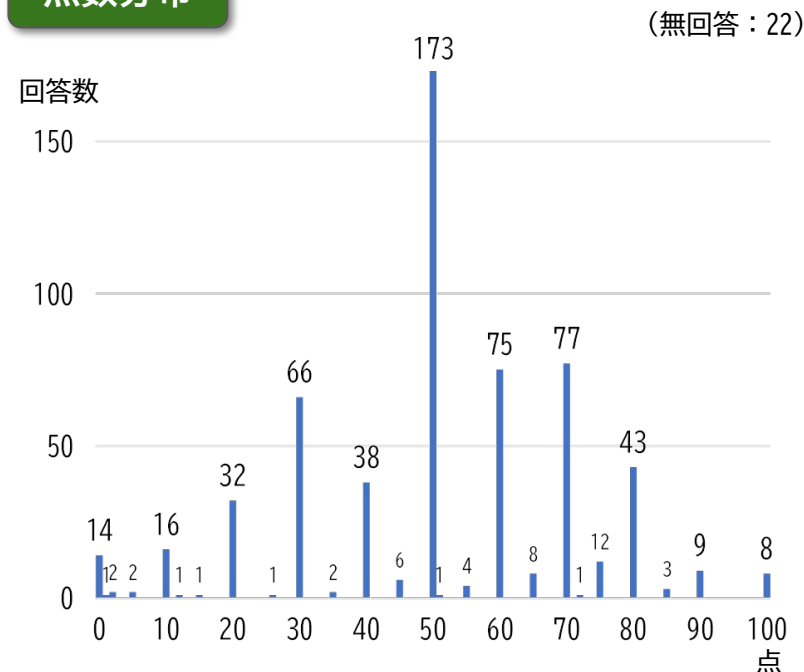
男女別平均点

男性	51.76
女性	49.24
その他	56.25

地域別平均点

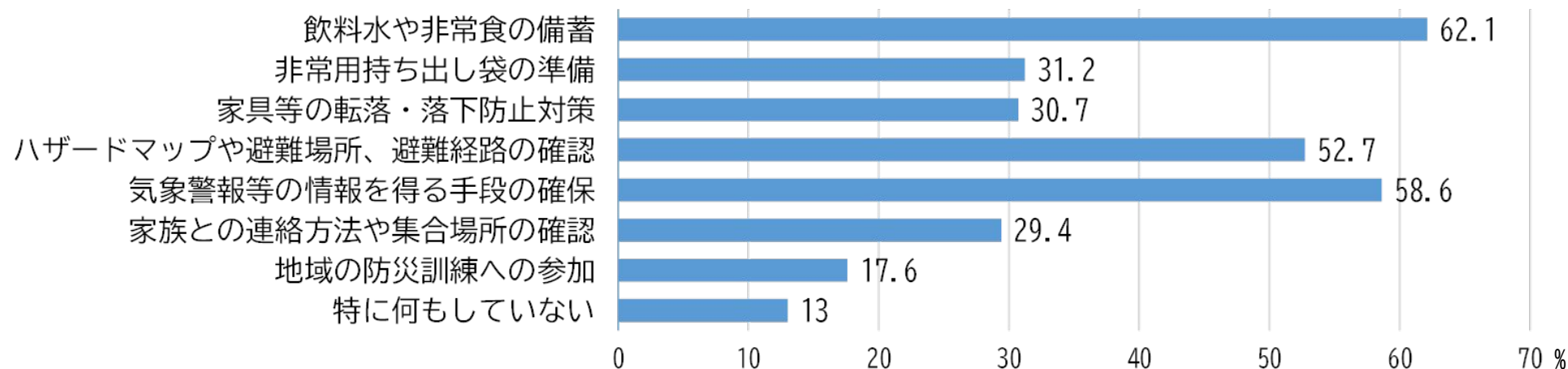
特別豪雪地域 ※1	51.38
津波浸水想定地域 ※2	50.60

点数分布

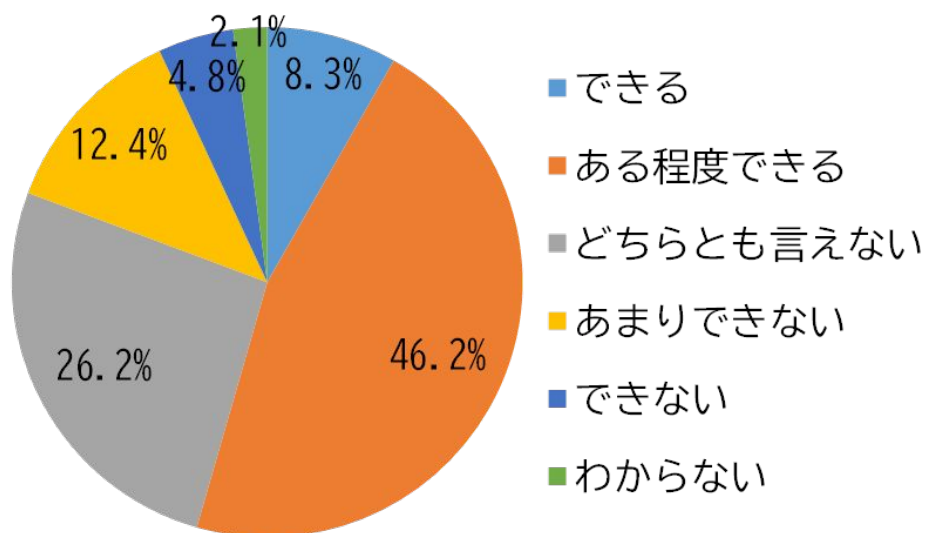


※1 豪雪地域対策特別措置法に基づき指定された市町村：鹿角市、大館市、北秋田市、上小阿仁村、藤里町、由利本荘市、大仙市、仙北市、美郷町、横手市、湯沢市、羽後町、東成瀬村
 ※2 県津波浸水想定（H28.3月公表）において津波浸水が想定される区域を含む市町村：能代市、三種町、八峰町、秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村、由利本荘市、にかほ市

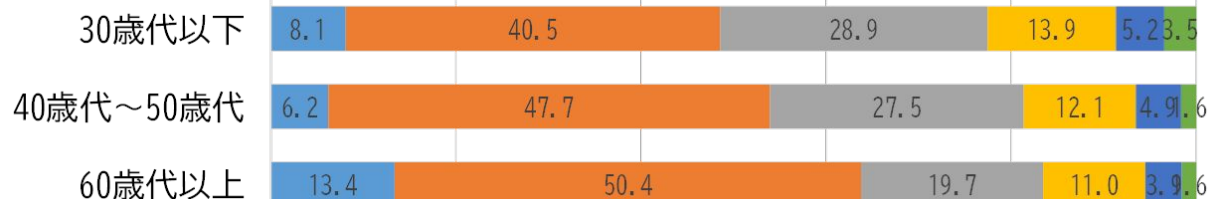
Q2 あなたが日頃実行している『災害への備え』は何ですか。（複数回答可）



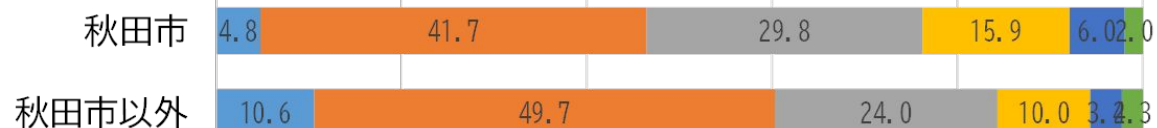
Q3 あなたの地域で大規模な自然災害が発生することを想定した場合、「あなたの周り」と助け合って行動することができると思いますか。



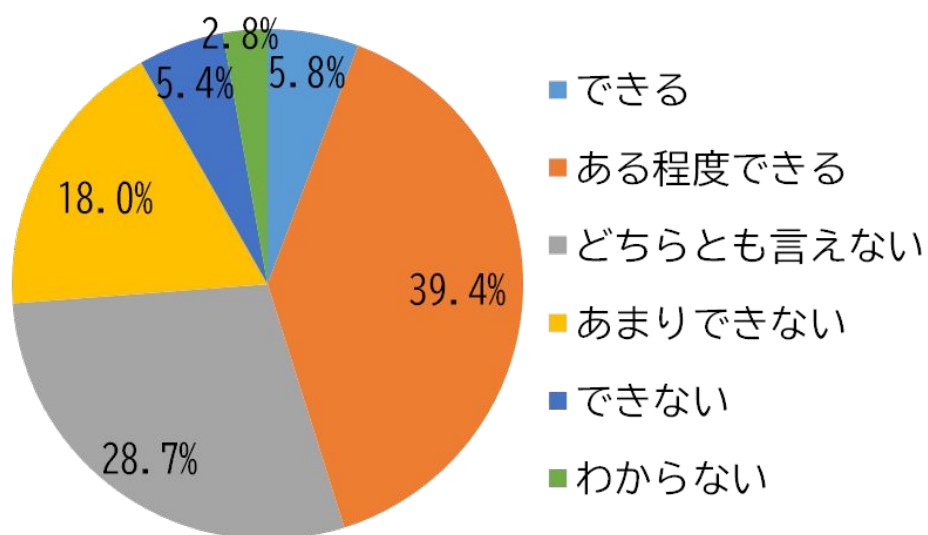
年代別内訳



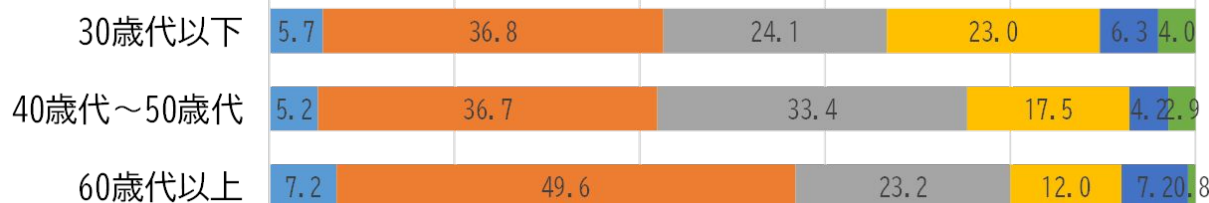
地域別内訳



Q4 あなたの地域で大規模な自然災害が発生することを想定した場合、「あなた自身」や「あなたの周り」では、高齢者など支援が必要な人に配慮して行動することができると思いますか。



年代別内訳



地域別内訳



Q5 あなたの地域で大規模な自然災害が発生することを想定した場合、どのようなことを不安に感じますか。（自由記述）

Q5「大規模な自然災害発生時の不安」に関する自由記述回答（有効 464件）を分析した結果、不安は大きく4つのカテゴリーに大別されました。

1 避難所の環境とライフラインの途絶

最も多かったのは、被災後の生活インフラに対する懸念です。避難所の手狭さ、プライバシーの欠如、衛生面への不安に加え、断水や停電による生活の麻痺、食料不足、通信遮断による情報孤立などを恐れる声が多く寄せられました。

2 高齢者対応と共助の限界

高齢化を背景に、単身高齢者や要支援者を「誰が避難させるのか」という切実な課題が浮き彫りになりました。同時に「自分や家族を守るだけで精一杯」「近所付き合いがなく周囲の状況が分からない」など、地域コミュニティの機能不全から、災害時の助け合い（共助）に限界を感じている声も目立ちます。

3 家族の安否と直接的被害

日中に被災した際、離れた場所にいる子供を迎えに行けるかという不安や、土砂崩れ、浸水、家屋の倒壊といった生命の危機に直結する物理的な被害を恐れる意見も多く見られました。

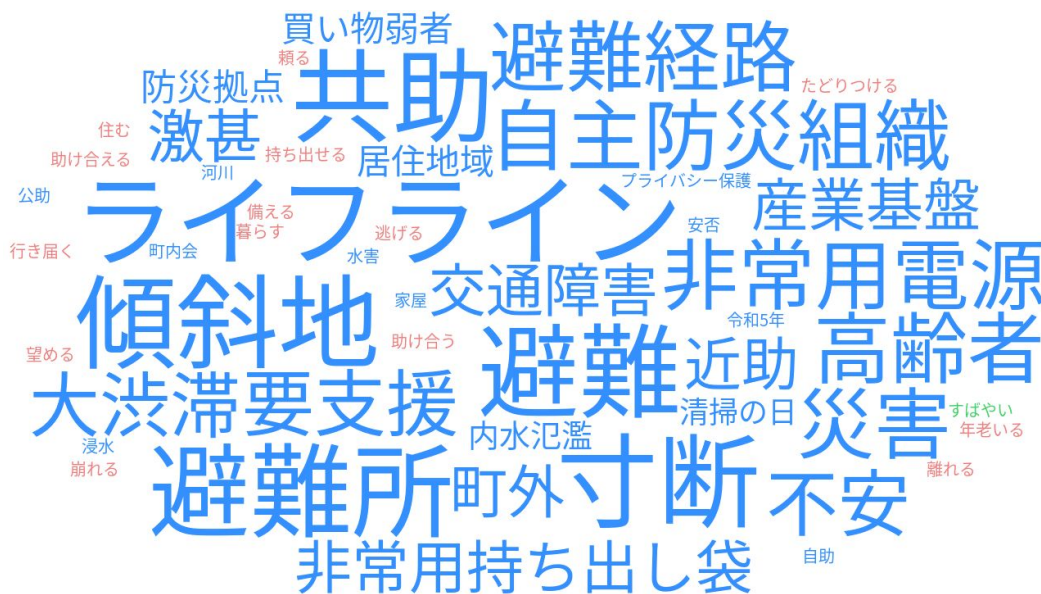
4 医療・持病への不安

少数ながら「持病の薬の確保」や「停電時の薬の冷蔵保存」など、個別の医療的ケアを必要とする切実な訴えもありました。

総括

県民は災害の直接的な被害だけでなく、持続的な避難生活の質や、地域における共助の実効性に強い不安を抱いています。行政にはインフラや備蓄の強化（公助）に加え、コミュニティが希薄な地域でも機能する現実的な避難計画の構築が急務です。

※このレポートは、生成AI（Gemini）を使用して作成しました。



※この画像は、ユーザーローカル テキストマイニングツール（<https://wordcloud.userlocal.jp/>）を使用して作成しました。